

原発の不安のない京都を

日本共産党府議会報告 2011年3月

東日本大震災に見舞われた皆さんに心からお見舞い申し上げます。日本共産党は被災者救援に全力をあげて取り組んでいます。また、同時に発生した福島第一原子力発電所事故は国民の命を脅かす重大事態であり、一刻も早い事態の解決と全国の原子力発電所の安全確保は緊急の課題です。党府議団の原発問題の取り組みをまとめました。ぜひご一読ください。

原発政策の抜本的転換を 府議団 2011年予算要求(2010.11.19提出)

- ・ 重大事故が相次ぐ原発の総点検、老朽原発の段階的廃止を国と関西電力に要求すること。
- ・ 新潟中越沖地震による東京電力柏崎刈羽原発の地震被害の教訓を生かし、耐震総点検の実施と必要な補強を引き続き強化すること、自主防災組織の抜本的強化を図ることを関電に強く求めること。
- ・ 国に対し、相次ぐ重大事故、検査態勢の不備が露呈している「もんじゅ」の運転再開を認めないこと、老朽原発の運用延長は認めないこと、高浜原発3・4号炉のプルサーマル計画の中止を求めること。
- ・ 原発防災計画は府内全域を対象としたものに改め、医師確保をはじめ、2次被曝医療体制を早急に整備すること。

府民の命を守るために一貫して鋭く追及

1 関西電力の久美浜原発建設計画を中止させ 舞鶴・宮津への原発建設を構想段階でストップさせる

①関西財界の「北部エネルギー基地化構想」を批判、久美浜原発を断念に

2006年3月8日関西電力は、京丹後市長に、久美浜原子力発電所計画の中止を回答しました。この計画は1974年12月の新聞報道等で明らかになりました。これは、出力二百数十万キロワット、当時の日本最大規模であり、当初は和歌山県浦神半島に建設を計画していたが住民の抵抗により挫折、丹後半島、久美浜町旭に持ってこようとしたものでした。計画は当時の町長と関電により秘密裏に進められましたが、党府議団は丹後地区委員会や久美浜町議団とともに住民運動と連携し建設反対運動をすすめました。府議会では75年7月、関西電力が計画を明らかにしないなかで、久美浜町に事前環境影響調査の申し入れをしていることを批判、反対を表明しました。

その後、78年自民党府政への転換のなかで、関西財界が、舞鶴石炭火電、新宮津火電も含めて府北部をエネルギー基地にする構想を打ち出し、府も三次総合計画に盛りこむなかで、1982年には、安全性が未確立であり、府内電気需要を大幅に上回る計画であることを暴露して、反対しました。

本会議でも何度も取りあげ、97年2月の一般質問では、「知事が計画廃止を表明せよ」とせまりました。当時の荒巻知事は「久美浜町においても町長さんだけのご意見でなく、町議会を中心に慎重に論議されていると聞いている。」と反対を明らかにしないままに推移しました。

その後、反対運動の高まり、原発事故の続発、電気の需給と計画の矛盾等があきらかになるなかで、関西電力がついに断念を表明せざるを得なくなったものです。



②舞鶴市野原・宮津市田井への原発建設を構想段階でストップさせる

1982年4月2日、不破哲三書記局長（当時）は、京都で記者会見し、関西電力が舞鶴、宮津など当面14地点を原子力発電所建設予定地として計画していることを、関電の極秘文書を公開して明らかにしました。関電側は、この計画について「事実無根」と記者会見で否定したものの、極秘文書の公開で関電の計画が白日のもとにさらされ、府民の重大な関心と怒りの声が高まりました。記者会見には西山秀尚共産党・革新共同府議団長（当時）が同席しました。席上、不破氏は、同年2月にまとめられた関西電力の社内文書「原子力発電所新規予定地の地形地質調査報告書」のコピー（抜すい）を配布。



関電社長室直轄で設置された「立地点調査プロジェクトチーム」が一府三県の117地点をリストアップし、さらに15地点にしぼって、地形地質調査を行い、それぞれの地点の評価を示したもの。報告書には表題にも「原子力発電所新設予定地」と明記され、さらに原発にしかあり得ない「炉心」という記述もされていました。

関電はこの報告書を参考にして15地点から10地点を選定、さらに久美浜など調査決定済みの4地点と合わせ、当面14地点を原発予定地としています。その内わけは京都府の久美浜町、舞鶴市野原、宮津市田井のほか福井県3地点、兵庫県3地点、和歌山県5地点です。（記事は京都民報から）

原発計画を「事実無根」としてきた関電に対しては、「立地計画がないのなら、調査経過を公表し、府民に対し将来にわたって計画放棄の宣言をするべき」だと述べました。

なお、計画されていた原発の規模は、久美浜は当面120万kW二基、将来は四基を加え最終的には6基720万kW、宮津については最終的に8基960万kWとする計画でした。

結果的に、この計画が公表されたため、舞鶴市野原、宮津市田井への建設計画は頓挫することになりました。

「関西電力の広域原発計画の危険性と国民の安全をまもる二つの緊急提案」を発表

この日の記者会見で不破氏はさらに、「関西電力の広域原発計画の危険性と国民の安全をまもる二つの緊急提案」を発表しました。提案では第一に、国が「人口密度」など原発立地基準をただちに再検討し、この面から国民の安全を保障する体制をとること、第二に、関係各府県当局が住民の安全を第一とする本来の立場にたって、企業の計画に流された現状を転換させ、危険な原発立地計画の規制に責任ある措置をとることをあげています。

2 原発問題の追及と府民の安全を守る活動

府会議員団が、最近の15年間（1996年～2010年）の本会議や知事総括質疑、委員会で原子力発電所問題に関連して発言（質問・討論・意見書提案など）した回数は30回以上に及びます。

府民の安全を守る立場から、国と関西電力の「原子力安全神話」を批判、それに追従する府の責任を追及。一貫して原子力発電所の危険性を指摘、原子力防災体制の確立を厳しく求めてきたのが日本共産党府議団です。他党派は、抜本的な原子力政策の転換に言及していません。

昨年9月議会では、危険な高速増殖炉「もんじゅ」の運転再開について、自民・民主・公明など他党派は「運転再開」を前提とした意見書を提案。「運転中止」を求めたのは日本共産党だけです。「もんじゅ」は直後に「炉内でのクレーン落下」という大事故を起こし、運転中止になっています。

原発の安全性確保を一貫して追及

京都府の「原発安全神話」「関電・国言いなり」を厳しく批判

府議団は、あらゆる場で、府の「原子力発電所の安全性自体については、基本的に国や事業所の責任」「法に基づいた検査を受けている」などの無責任な態度を厳しく批判してきました。

原発の具体的問題点を指摘、安全性確保を厳しく迫る

安全無視の核燃料リサイクル政策（MOX 燃料、高速増殖炉）の中止を要求

- ・ 阪神大震災や中越地震から、原発施設の耐震安全設計の重大な不備を指摘。高浜や「もんじゅ」付近に活断層が発見されたことも指摘、国に対して「耐震設計のあり方」そのものを抜本的に見直すべきと要求。耐震総点検の実施と必要な補強を求める。

（高浜原発の津波の高さ想定は 1.34 メートルです）

- ・ 美浜原発 3 号機の配管破裂蒸気噴出事故、「もんじゅ」のナトリウム流出事故など重大事故の教訓を関電や府が生かすこと。抜本的な対策の実施を求める。
- ・ 美浜や高浜など老朽化した原発の運転延長に反対
- ・ 危険な高速増殖炉「もんじゅ」や高浜原発 3・4 号機での MOX 燃料（プルトニウムを混合）運転に強く反対。

原発に対する共産党の考えは… 2011. 3. 23 志位和夫委員長

原子力政策の思い切った転換をはかる必要があります。国際基準に合致し、今回の震災の教訓も踏まえた新しい安全基準をつくり、全国にある原発の総点検をおこなう必要があります。政府が、昨年策定した 14 基以上の原発を新增設する無謀な計画はきっぱり中止すべきです。東海地震の想定震源域の真上に位置する浜岡原発は停止すべきです。老朽化した原発の「延命」は中止すべきです。危険きわまりない高速増殖炉「もんじゅ」、プルトニウムが入った燃料を一般の原子炉で燃やすプルサーマルなど、プルトニウム利用の核燃料サイクル政策の中止を強く求めます。

原子力防災体制の抜本的強化を要求

- ・ 原子力防災対策範囲「10 km 圏」を少なくとも「50 km 圏」に 法改正・整備を一貫して要求

（最高裁は「もんじゅ」の住民訴訟で 58 キロを認知 アメリカは 50 マイル（80 km）が範囲）

- ・ 原子力防災計画を「府内全域を対象」にしたものに改めることを要求
- ・ 原発隣地県として原発への立ち入り検査等の実施、府に原子力対策専門官の配置、原発事故想定住民避難訓練実施を要求。（実現）
- ・ 原発の消防体制の充実 高浜・美浜原発の自主防災組織の抜本的強化を関電に強く求める
- ・ 被曝時医療体制の整備 舞鶴市民病院 綾部市民病院の体制強化を要求
- ・ ヨウ素剤の配置 幼稚園や小学校への配置を要求
- ・ 放射線モニタリング体制の拡大を 現在、府南部に府のモニタリング体制無し

原発事故発生時にただちに現場を調査 対策を具体的に要求



重大事故発生時にただちに問題点をつかみ、対応を要求。美浜原発 3 号機の細管破断事故や柏崎原発事故では、関西電力美浜原発と高浜原発を国会議員団と共同で休止中の原子炉の中に入るなど調査も行ない、問題点をつかみ対応を求める努力を行なってきました。

写真は 高浜原発の調査を行なう府議団

2007 年 8 月

3 原発の安全神話を振りまく京都府

原発容認・推進のオール与党

府の「2011 原子力防災手帳」には

高浜原発の10キロ圏内である舞鶴市・綾部市の一部に配布されている「2011 原子力防災手帳」には「事故を起こさずに安全に運転できるようたくさんの安全装置がついている」「法律等に基づいて厳しいチェックを受けている」「地震に対する安全対策は津波に対する安全性の確認も行なっている」など「原発は重大な事故を起こさない」という「安全神話」に基づく記述がされ、府民へ広報されています。

他会派の原発容認発言

2008.07.11 : 平成20年地球温暖化対策特別委員会6月定例会 自民党議員

「私は地球温暖化で一番大事なのは、原子力発電の議論をもっとすべきだと思っている」「石炭火力とか石油火力とかを代替していくためには、原子力というのは避けて通れない。」「原発とクリーンエネルギーとのコストは膨大な差がある、それを代替していくのは現実には多分難しい」「現実論としてどうとらえているか。安全性はまた別の話です。」

ご存知ですか

福井県には 14 の原子力発電所 全国最大の原発立地

日本原電	敦賀発電所	2基	建設 1970年	さらに2基計画中	151.7万kw	敦賀市
関西電力	美浜発電所	3基	建設 1970年		166.6万kw	三方郡美浜町
関西電力	大飯発電所	4基	建設 1979年		471万kw	大飯郡おおい町
関西電力	高浜発電所	4基	建設 1974年	3号機でプルサーマル	339.2万kw	大飯郡高浜町
原子力開発機構	もんじゅ		建設 1991年	高速増殖炉 実証炉	熱出力 71.4万kW	敦賀市

京都府の全域が高浜原発から 80 キロ圏内に

図は「京都民報社」提供

